

# 全国協議会 ニュース

2013年11月1日発行  
第257号

発行所  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都  
千代田区東神田1-3-4  
KTビル3F  
TEL.(03)5823-6360  
FAX.(03)5823-6365  
発行責任者:野村正満  
http://www.marrow.or.jp/  
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座  
00150-4-15754  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655

## 新事業を開始

### 「患者サロン」と「患者社会復帰支援活動」

## 手始めに餃子パーティー

血液の病気との闘いは長く苦しいものです。さらに、病気がよくなっても、その後遺症や精神的ダメージなどで社会に復帰できないこともあります。全国協議会は白血球や血小板の病気やその後の療養生活で、どうしても病院や家庭など限られた場所での生活が続き、外出の機会を設けて、社会復帰へのきっかけづくりをしたいと準備を進めてまいりました。小さな一歩ですが、「患者サロン」と「患者社会復帰支援活動」の2事業を開始します。

患者サロンは、2カ月に1回の開催を目安として、1回ごとに内容を企画し、各回の参加者にも意見をいただきながら、簡単な食事会、各種講習会、男子だけ・女子だけを集めた座談会、将棋・囲碁や手芸などの趣味・娯楽といったイベントを開催します。

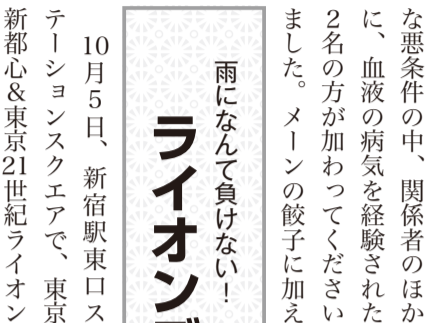
患者社会復帰支援活動は、ボランティアとして全国協議会の会報の発送作業など事務局の作業を体験することで、まず第一歩として体を動かすことから始め、その後の就労につながるよう支援します。また、SNSや患者会なども通じて呼びかけ、将来は社会復帰支援活動が、東京だけでなく、全国に広まればよいと思います。

### 2カ月に1回開催へ

10月20日には、グリーンリボンランニングフェスティバルの終了後、午後2時から、第1回患者サロン「餃子パーティー」を行いました。当日はあいにくの雨となり、ランニング出場者には寒さも加わってくださった。そんな



雨になんて負けない！  
ライオンズデー in 新宿  
5月5日、新宿駅東口ステーションスクエアで、東京都心&東京21世紀ライオンズクラブ主催「ライオンズデー」命をつなぐチームプレー「優しさ」と勇気を持って『献血・骨髄ドナー登録会』が行われました。



また、焼きをみんなで作り、わいわいと囲みます。お二人とも進んで料理に参加して、たこ焼きがうまく仕上がると「新しい職がみつかった!」と冗談を飛ばし、笑いを誘いました。



また、食事の後は今後の活動について話し合い、当事者であるお二人からの生の声をもらうことができました。「患者さんのためにできることは何か?」が最大のテーマになりましたが、今後もうこうしてみんなで知恵を出し合っていければと思います。



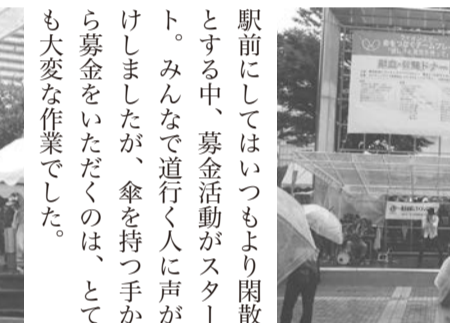
駅前にはいつもより閑散とする中、募金活動がスタート。みんなで道行く人に声をかけましたが、傘を持つ手から募金をいただくのは、とても大変な作業でした。



ステージでは終始、献血とドナー登録への協力呼びかけがおこなわれながら、様々なプログラムが展開されました。ジャグリングのパフォーマンに子ども達は釘付けになり、元気になった患者さんのウクレレライブは両音をバックに



最後は、大谷貴子顧問の司会で、元気になった患者さんや提供したドナーさんによるトークでした。移植後の後遺症を抱えながらも就職活動を行う大変さを伝える患者さん。入院中にハマった週刊少年ジャンプの読者大喜利投稿ページ「ジャン魂G」優勝賞品の法被を着て登場し、闘病の様子を話してくれた患者さん。中学生から登録すると思



優しい音色を奏しました。お昼には開会セレモニーが行われ、全国協議会の野村理事長も挨拶を述べました。午後、日本の美しい歌に心癒やされ、紙芝居「骨髄バンクってなあに?」で白血病や骨髄バンクの即席勉強会、エネルギーシユなハーモニカ演奏に、血液豆知識のクイズと、盛り沢山の内容でした。



なさんトークを介して、一人でも多くの方々に正しく現状を理解してもらおうと言葉をつないでくれました。病名さえも忘れてしまうほど元気がなくなった患者さんとそのご主人は、家族に患者さんがいた時の大変さを語ってくれました。中学生の娘さんが母親のドナーさんに書いたお手紙を持参くださったので、参加したドナーさんに朗読してもらいました。移植を控えた母親の様子、提供してくれるドナーさんが大変な苦勞をされていることへの驚き、そして

## 心からのご寄付に 感謝申し上げます

9月21日～10月20日 (敬称略)

菊水酒造株式会社	現金	500,000円
移植者フットボールクラブ	現金	27,000円
NPOサカエ会チャリティーボウリング大会	現金	96,000円
チャリティーボウリング大会券金箱	現金	50,762円
グリーンリボン会場募金額	現金	14,128円
飛田 行康	現金	5,000円
須藤 勝巳	現金	6,005円
塩谷 泰人	現金	1,000円
細井 裕樹	現金	50,000円
藤波 敬子	現金	10,000円
山村 詔一郎	現金	1,340円
鈴木 純子	現金	1,340円
●白血病患者支援基金		
磯屋食堂	現金	5,262円
ヴァンティアン	現金	11,664円
嶋津 桂子	現金	3,000円
武本 裕子	現金	1,000円
村上 史一	現金	1,000円
●佐藤さち子患者支援基金		
福崎 勝利	現金	20,000円
梅原 保	現金	20,000円
奴田原 暁代	現金	10,000円
古賀 聡子	現金	4,442円
越田 光重	現金	3,000円
樋口 勇一	現金	2,000円
匿名	現金	2,000円

活動資金の援助をお願いします  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会

「しまねまごころバンク」は、地域医療の質的向上と県民の健康・福祉の増進を目的とし、移植医療の推進・難病

公益財団法人  
ヘルスサイエンスセンター島根  
しまねまごころバンク  
理事長 広沢卓嗣

骨髄バンクの最新情報をお知らせする  
骨髄バンク NOW

(財団マンスリーJMDP (10月15日発行)より抜粋)

- 平成25年度上半期の移植数、ドナー登録者数などの実績について  
4月1日～9月30日の移植数は694件で、前年度同期(672件)より22件増加しました。内訳は「国内ドナー→国内患者」が686件(20件増)、海外バンクを介した「海外ドナー→国内患者」が3件(増減なし)、「国内ドナー→海外患者」が5件(2件増)でした。また、末梢血幹細胞移植は8件実施され、累計で27件となりました。患者登録数は、前年同期の1474人より471人増の1521人(国内1149人、海外372人)でした。一方、ドナー登録者数は、9月末現在で43万6998人(前年同期41万8890人)を数え、新規登録者数は1万5794人で前年同期の1万8588人より2794人の減でした。都道府県別に見ると、平成22(2010)年度からドナー登録説明員を献血ルームに配置した埼玉県では、前年度に続き新規登録者が910名で全国1位と定めています。また、9月から同様に説明員を配置した神奈川県では、9月期のドナー登録者が188人(8月期は39人)と大きな成果を挙げています。
- ◆日本骨髄バンクの現状(平成25年9月末現在)  
8月 9月 現在数 累計数  
ドナー登録者数 2,701 2,869 436,998 591,719  
患者登録者数 221 240 2,896 39,809  
移植例数 119 128 16,083
- 9月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/948人、献血併行型集団登録会/1,830人、集団登録会/20人、その他/71人
- 9月の年齢別ドナー登録者数(現在数)  
10代 3,013人/20代 71,359人/30代 151,663人  
40代 168,041人/50代 42,922人
- 9月の20歳未満の登録者211人

注)数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。  
平成24年7月より集計方法が変わりました。

このほど、「しまねまごころバンク」が全国協議会に加盟申請し、9月29日の理事会にて承認されました。これにより、全国協議会は39団体となり、33都道府県で活動することになります。

患者の相談支援・がん対策募金・脳ドックなどの健康診断・老人性疾患に関する調査研究などを行っている「公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根」の一部門として、

新しい仲間紹介  
しまねまごころバンク  
このほど、「しまねまごころバンク」が全国協議会に加盟申請し、9月29日の理事会にて承認されました。これにより、全国協議会は39団体となり、33都道府県で活動することになります。

家族の元に元気がなった母親を返してくれたドナーさんへの感謝の思いがこめられ、ステージ前では多くの方が目には、関係者の連絡会議やボランティア研修会を行い、県西部を中心に活動している「らいらつくの会」、県東部の「骨髄バンクを支援する松江の会」、「出雲の会」などのボランティアの皆様と連携し、島根県赤十字血液センターの協力を得て献血併行型登録会を年間50回程度開催しています。

今回、ボランティア活動が円滑に行われるよう各団体を代表して全国協議会に加入させていただきます。今後ともよろしくお願ひ致します。

しまねまごころバンク  
〒693-0021 島根県出雲市塩冶町223-7  
TEL:0853-22-9343 FAX:0853-22-6498

### グリーンリボンランニング 協議会チームも参加

2013グリーンリボンランニングフェスティバル(NPO法人日本移植者協議会など主催)が東京・国立競技場で開催されました。

朝からの雨が、競技中には横なぐりの風雨に変わるなどあいにくの天候でしたが、駅伝(1km×4名)には理事・事務局員4名編成の全国協議会チームが着ぐるみで参加、また東京の会の2チームや個人の部10kmの選手を含めて思いの走行スタイルを楽しみました。

### 記憶に残る「雨中走」

競技に参加した方に、「雨中走」の直後に感想をお聞きしました。

◇暴風雨の中、10kmを無事完走。街頭の応援が背中を押してくれました。昨年より41秒



## 医療現場からの最新情報

—その2

### 虎の門病院血液内科 山本久史 ミニ移植の登場

今回はミニ移植(骨髄「非破壊的」移植)に関して話をします。従来の移植前処置は、腫瘍細胞の根絶を目指して大量の抗がん剤や放射線を用いた骨髄「破壊的」移植が標準的で、その高い毒性ゆえに55歳以上の患者さんは移植対象外とされていました。

しかし、移植のメリットは前処置のみならず、移植後に生じるGVL効果によるものが大きいことが分かってきました。GVL効果とは、生着したドナー細胞が免疫的に白血病細胞を攻撃してくれる同種移植最大の武器です。高齢者でも耐えられる程度に前処置を軽減し(「非破壊的」)、腫瘍細胞の根絶はGVL効果に期待するというのがミニ移植の基本的な考え方です。

ミニ移植の登場は年齢の壁を超える大きな一歩になり、高齢者でも白血病を克服できる時代になりました。しかしながらミニ移植という優しい表現とは裏腹に、同種移植である以上、命にかかわる合併症が起り得る治療方法であり、また移植後の再発は克服すべき課題です。

現在までに様々なミニ移植法が開発され、それぞれの特性が分かってきました。また最近、毒性および再発を同時に克服できるような新しい前処置の開発も進んでいます。将来的にはそれぞれの患者さんの状態や病状に合わせた最適な前処置(オーダーメイド前処置)の確立も決して遠くはないと思っています。



## 心の声

何十年のその先にある誰かの未来につながるように！  
その未来は、明るく輝いていることを思いながら骨髄バンク活動ができればよいとの思いで、かがやきコンサートを開催し、感想文を寄せていただきましたのでご紹介いたします。(岐阜 田中)



は、2歳で白血病を発症し、治ったけれども6歳で再発し、また治ったけれども9歳で再々発して、骨髄移植を受けたいです。

横幕君は、白血病のため骨髄移植が必要だと言われたお兄ちゃんのために、2歳でドナーとなり、骨髄提供をしたそうです。

このように、ドナーが骨髄を提供することによって、白血病などの病気を患っている患者さんの命を救うことができるかもしれません。このように骨髄バンクでドナーと患者さんの命が結ばれるのがすごいことで、応援したいと思いました。

ぼくは骨髄バンクのボランティアなどはやることがないけれど、ボランティアなどに参加したいなあと思いました。池田和正(中一)

## 各地のたより

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

お揃いのTシャツで骨髄バンク支援



本大会は、骨髄バンク推進活動支援を目的に参加費の一部が全国協議会へのチャリティとなり、初めて、地元企業・商店・個人の皆さん方に協力を呼びかけ、96名の方が参加されました。会場となった飯塚第一ボウルも貸し切り・ゲーム代を割引する形でご支援くださいました。

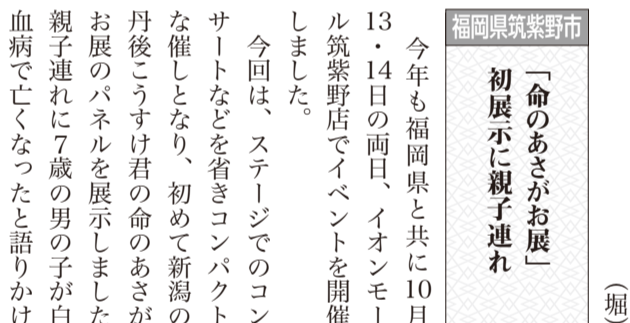
開会式直後に、地元ラジオ放送でパーソナリティーも務めるバンカヨコさんが松田聖子さんのモノマネで雰囲気盛り上げ、その後、1チーム3名で大会がスタート。参加者はストライクに喜び、ガーター時の募金箱100円寄付の罰金ルールに苦笑い。時には第一ボウル所属の三池丹揮プロにお助けサインを発売してヘルププレーで助けられたりしながら、各レーンでは白熱したゲームが展開されました。閉会式では成績優秀チームや個人への豪華賞品の贈呈に続き、今回の会場で集まった募金も含めた寄付贈呈式が行われ、当協議会の田中幸一副会長から、感謝の意が伝えられました。

96名の参加者全員が「つなげよういのち」Tシャツを着用しての大会は、圧巻でした。(堀)

今年も福岡県と共に関東13・14日の両日、イオンモール筑紫野店でイベントを開催しました。

## 「命のあさがお展」初展示に親子連れ

今年も福岡県と共に関東13・14日の両日、イオンモール筑紫野店でイベントを開催しました。



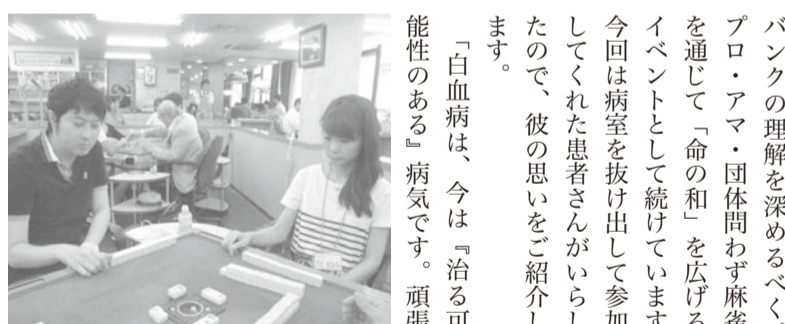
## 東京都港区 病院から外出参加者もチャリティー麻雀大会

9月15日、骨髄バンクチャリティー麻雀大会2013 in 東京が新橋・新雀荘(東京都港区)で開催されました。骨髄バンクの理解を深めるべく、プロ・アマ・団体問わず麻雀を通じて「命の和」を広げるイベントとして続けています。今回は病室を抜け出して参加してくれた患者さんがいらしたので、彼の思いをご紹介します。

「白血病は、今は『治る可能性のある』病気です。頑張ります。」

「白血病は、今は『治る可能性のある』病気です。頑張ります。」

「白血病は、今は『治る可能性のある』病気です。頑張ります。」



「ある日突然、医者の方から言葉とともに闘病生活が始まりました。治療過程ではいろいろあったものの、幸いにも兄と白血球の型が一致し骨髄移植ができたこともあり、移植から1年経過した今のところ再発はしていません。」

ただ、7月に慢性GVHDという移植後に起こりやすい合併症が出てしまい、麻雀大会当日もまだ入院中という微妙な状態でしたが、医師に無理を言って外出し参加させていただきました。

よく勘違いされるのですが、「骨髄移植をする＝治る」ということではありません。そして移植はゴールではなく、実は辛い闘病生活の再スタートなのです。移植をしたことによる副作用や合併症で命を落とすことも多々あります。また、移植をしても再発する可能性もあります。それでも移植をする理由は、再発率が低くなる、つまり完治する「可能性が高まる」のです。まさに人生を取り戻すための「希望」です。

僕のように移植を受けた人間は、ドナーにはなれません。それどころか献血すらできません。では同じような血液疾患で苦しんでいる人のためにできることって何だろうか？

きつとこの病気を乗り越えたい人は、少なからず考えることだと思います。

今回初めてこの大会に参加しましたが、いろんな「元患者」の方と出会えました。打つ人。闘う人。走る人。表現はそれぞれだけど、1人でも多くの患者に「希望」を与えたいという想いは皆同じだと思います。

この先、自分には何ができるだろうか？ そんなことを考えさせてくれる素晴らしい出会いがたくさんあり、今回参加できて本当に良かったです。いろいろ調整してくれた友人に感謝！ 来年はもっと元気な身体で参加します！(松井圭祐)

## さらなる飛躍へのステップ さい帯血バンク推進全国大会

さい帯血バンク推進全国大会(9月28日、東京都内)に参加しました。直前の8月末に世界に先がけて移植1万例突破が実現したとあって、全国から参加者が集まりました。

さい帯血中の造血幹細胞の発見に関する講演や、さい帯血を採取される産婦人科の先生の講演、移植された患者さんや家族によるパネルディスカッションなど、関係する方々が一堂に会し、移植の「絆」を一本の糸のようなつながりに感じる素晴らしい会でした。全国協議会の仲田順和会長が、公式行事で初めての挨拶となり、1万例突破の祝辞を述べました。

さい帯血移植は今後もさらに治療成績が向上され、高齢化社会に向け患者ニーズが高まることを期待する一方で、採取、移植の施設数やマンパワーの不足を感じました。

さい帯血は天使の贈り物。赤ちゃんの人生最初のボランティアにより救われる人が増えることを願ってやみません。(辻)

